

なからぎ

252号

2026.1

特集

私の図書館活用法

～学生生活に“図書館”を
うまく組み込むコツ～

目次

私の図書館活用法

～学生生活に“図書館”を
うまく組み込むコツ～

図書館からのお知らせ

冬の企画展示

～歴史学科学生×図書館コラボ～
京都府立大学創立130周年
記念展示

編集後記

～学生生活に“図書館”をうまく組み込むコツ～

私の図書館活用法

みなさんは、普段の生活で図書館をどのように利用していますか？

図書館では紙の資料だけではなく、館外からも利用できる電子リソースや、個室・グループ研究室などの施設、他大学等の資料の利用やレンタル、企画展示など様々なサービスを提供しています。今回ご紹介する学生や先生方の声から、ぜひ学生生活のなかに図書館をうまく組み込むヒントを見つけてください。



欧米言語文化学科※ 3回生 A.K.

※国際交流文化学科の前身

- ① 英文学を専攻しています。最近はジェイムズ・ジョイス、カズオ・イシグロの作品を愛読しています。
- ②
 - ① 週に4回
 - ② 資料の利用・個人学習・研究個室利用・気分転換
- ③
 - ① 週に1回
 - ② データベース(OED)・マイライブラリ(研究個室申込、学生希望)・蔵書検索
- ④ 幼い頃から冊子の本に慣れているので、今でも図書館では冊子を借りています。電子リソースの中では、データベースのOEDをよく利用します。文学作品を研究する際、その背景にある文化や歴史を掘り下げたい時や、用いられている単語の最適な意味を見つけたい時などに、OEDを使うと便利です。
- ⑤ 研究個室を利用することが多いです。静かな落ち着いた環境なので、集中して読書をしたり、課題に取り組んだりすることができます。資格試験の勉強をする時もあります。自分にとっては時間を忘れるお気に入りの場所です。また気分転換に、開架にある本を眺めながらぶらっと図書館内を歩くことも好きです。
- ⑥ 希望図書をリクエストできるサービスや、時間を使いに使える空間のある図書館はありがたい存在です。私は読書をして心に残ったフレーズはノートに書き留めています。スマホで情報は手に入りますが、本は自分の世界を広げてくれます。皆さんも図書館を利用してみてください。



福祉社会学科 2回生 小津 裕大

- ① ミライズという団体で、図書館のグループ研究室を利用して、中高生の「居場所づくり」をしています。
- ②
 - ① 週に2回
 - ② グループ学習
- ③
 - ① 週に2回
 - ② 施設予約
- ④ 特に使用していません。
- ⑤ 基本的にはグループ研究室を利用しています。ミライズの活動やミーティングに活用しており、日々のサークル活動の幅が広がっています。また、予約はオンラインで行えるということもあり、スムーズな活動展開につながっていると感じています。
- ⑥ 自主的に学習や研究に取り組める自由度の高い環境があり、テスト前などの自習などに使いやすい図書館だと思います。なかなか図書館を利用する機会は少ない人もいるかもしれません、ぜひ使用してみてください。その際、私たちの活動を少しでも覗いてくれたらうれしいです。

ミライズ: 福祉社会学科の学生有志サークル



▲HP



▲LINE

// 学生・院生・先生方に聞きました //

あなたの図書館活用法を教えてください



- ① 学習や研究テーマについて
- ② a 図書館の来館頻度は?
b 利用目的は?
- ③ a 来館せずに使えるサービス(※)の利用頻度は?
b 利用目的は?
※電子リソース、マイライブラリ、Riflis(蔵書検索)など
- ④ 冊子と電子リソース(電子ブック、電子ジャーナル、データベース)のうちどれを利用していますか?また、どのように使い分けていますか?
- ⑤ よく利用するサービス、館内でよく利用する・好きな場所
- ⑥ 後輩や学生に向けたアドバイスをお願いします!



理工情報学科 2回生 橋本 明洋

- ① 図書館で借りている本の主なテーマは哲学です。よく借りているのはワイトゲンシュタインやキルケゴーなど古典の西洋哲学とその二次文献などです。
- ② a 週に3~4回
b 資料の利用
- ③ a ほとんど利用したことがない。
b 蔵書検索
- ④ 電子リソースは利用したことがなく、基本的に実物の本を読んでいる。たまに気になった書籍があるか蔵書検索で調べることはある。私が普段利用している分野は品揃えがよく検索すれば大抵あるのでとても助かっている。
- ⑤ 基本的に気になった本があれば近くの席に座って読むことが多い。図書館の施設は静かでとても集中できるし、またきれいで気分が落ち着くのでとても気に入っている。哲学書の本棚に囲まれていると、知的好奇心が刺激されてよい気分になる。
- ⑥ 蔵書が多く、大きい本屋でも置いていない専門書があったりするので気になった分野があったら図書館を利用してみるといいだろう。より広く深い関心がもてると思う。貸出期間も2週間と長く借りができる(延長も可)※。
※4回生と院生は1か月貸出可能な特別貸出も併用可。



農学生命科学科 1回生 鴨川のコサギ

- ① 日常の調べものや日々の読書の本を借りるために利用しています。
- ② a 週に4回
b 資料の利用
- ③ a 月に2回
b 電子ブック・マイライブラリ(学生希望)・蔵書検索
- ④ 基本的に冊子を利用することが多いです。荷物が多い日や出先で本が読みきくなつた時は、電子ブックを利用しています。学生希望図書を利用する際は今まで冊子購入を選んできましたが、電子ブックにも挑戦してみたいです。
- ⑤ 主に授業や日常生活などの調べものの際に利用しています。よく利用するサービスは図書の学生希望です。インターネットの書評で気になった本などを申請しています。図書館での好きな施設はラーニング・コモンズです。ソファーもあり、カジュアルな雰囲気で過ごしやすいです。
- ⑥ 先生方の推薦図書や季節に合わせたテーマのおすすめ図書などのイベント、いつも楽しみにしています(スタンプラリーイベントも前後半ともに友人と参加しました)。電子ブックも含めて、さまざまなジャンルの蔵書が更に増えていくといいなと思います。



史学専攻 博士前期課程 2回生 河村 如乃

- ① 日本中世史を専攻しており、院政期王家や平家政権について研究している。
- ② **a** 週に5回
b 資料の利用・個人研究・グループ学習・ILL利用
- ③ **a** 週に5回
b マイライブラリ(ILL申込、学生希望)・蔵書検索
- ④ 主に冊子を利用している。個人の好みだが、紙媒体が利用できる場合は、基本的にそちらを優先している。当館に所蔵されておらず、国立国会図書館のデータベースで閲覧可能な資料は、図書館内の端末で閲覧し、コピーを依頼するなどしている。
- ⑤ 自身の研究に際して、資料を借りることは勿論、個人の空間がほしい時やオンライン会議の聴講時には、研究個室を利用している。また当館に所蔵されていない資料は、複写依頼や他館への閲覧申請をしている。ゼミや研究会では、グループ研究室を利用している。
- ⑥ 学生生活はあなたのオーダーメイドです。どう過ごそうかな…そう考えたとき、本の世界はあなたを待っています。たまには日常の喧噪を離れて、知りたいことをめいっぱい探してみてはいかがでしょうか。附属図書館は、そんなあなたの望みにきっと答えてくれますよ。



公共政策学専攻 博士前期課程 1回生 山田 健太郎

- ① 国民体育大会とその後の地方自治体の政策展開と行政行動について
- ② **a** 週に1回
b 資料の利用・個人研究
- ③ **a** 週に3回
b 電子リソース・蔵書検索
- ④ データベースは、気になった文献やキーワードを検索し、調べることで、知識の理解を行っています。特に、新聞のデータベースでは、過去の出来事の反応やその変遷、図書のデータベースでは参考文献の検索に利用しています。
- ⑤ 研究個室の利用を積極的に行っています。学内の数少ない自習スペースの中で、使い心地が良く、快適に自学を進めることができる環境です。また、図書リクエストや他図書館からの図書の取り寄せなども積極的に活用させてもらっています。
- ⑥ 館内には歴彩館を含む様々な資料が存在しています。また、学内者向けのサービスも存在しているため、レポートの作成やテストに向けて積極的に活用してみてください。講義等で気になった出来事・単語をデータベースで検索してみるのもいいかも。



環境科学専攻 博士前期課程 1回生 内田 裕菜

- ① 平安時代の和歌に詠まれた生物を通して、当時の空間や生態系と人々の関係を読み解く研究。
- ② **a** 週に1~2回
b 資料の利用・個人研究
- ③ **a** 週に3~4回
b 電子リソース・マイライブラリ(ILL申込、学生希望)・蔵書検索
- ④ 紙媒体が好きなので基本的には冊子を利用している。研究対象である和歌集が収録された書籍もよく利用する。手元にない資料を参照したい時や、図書館まで行く時間が無い時に電子ブックを補助的に利用している。
- ⑤ 大学院進学後は研究個室を利用することが特に増えた。所属する研究室では研究を中心にを行い、レポート作成や就職活動に関する作業は、気分転換も兼ねて研究個室に移り、短時間で集中して行うことが多い。また、「新着図書コーナー」が好きで興味を持った本は分野を問わず読んでいる。
- ⑥ 特に用がなくても図書館に足を運んでみるのがおすすめです。私もただ本を探す目的だけでは見つからないような興味を引く本に偶然出会い、レポートや研究の役に立ちました。学生の特権として気軽に利用できる場所もあるので、自分のペースで活用してみると、学びを深め、関心の幅が広がるきっかけになると思います。



食の文化学位プログラム 博士前期課程 1回生 濱田 愛

- ① 「食文化」「教育」「ミュージアム」をキーワードとし、社会における食の学びの在り方について探求。
- ② **a** 週に2回
b 資料の利用・個人研究・グループ研究
- ③ **a** 週に2回
b 電子ブック・蔵書検索
- ④ 冊子は思考を深めたい時や、書架を眺めて偶然の出会いを楽しみたい時に利用する。一方、電子ブックは館内のおすすめで気になった本の中身を少し確認したい時など、気軽に活用している。じっくり読みたい時、広く浅く知りたい時、と使い分けている。
- ⑤ 来館の度に食文化の書架へ向かう。捉えどころのない対象の輪郭を掴むため、まずは500冊手に取ることが目標である。先行研究が見つけにくい分野だが、書架では「こんな視点があったのか」という先人の発見や、著者の熱量に直接触れられる。食文化研究の難しさと面白さ、その両方を感じられる。
- ⑥ 図書館で得た知見を卒論の枠を超えて社会実装につなげてみませんか。現在、学内初【起業部】設立準備中です。アイデアをカタチにする方法と一緒に考えてみたい方、ぜひご連絡ください。

連絡先:kpu.entrepreneurship@gmail.com

- ① 学習や研究テーマについて ② a 図書館の来館頻度は? b 利用目的は?
 ④ 冊子と電子リソースのうちどれを利用していますか? また、どのように使い分けていますか?
 ⑤ よく利用するサービス、館内でよく利用する・好きな場所 ⑥ 後輩や学生に向けたアドバイスをお願いします!



日本・中国文化学科 教授 本井 牧子

- ① 仏教説話を中心に説話集や絵巻などを研究。
- ② a 週に2回
b 資料の利用
- ③ a 週に20回
b 電子リソース・マイライブラリ(ILL申込)・蔵書検索
- ④ まずJapanKnowledgeやCiNiiなどのデータベースで基本情報を収集し、それをもとに冊子の関連資料を図書館で利用する。日本文学分野では、まだ電子リソースは十分ではなく、冊子しかないものが圧倒的に多いので、使い分けというよりも、必然的にこのようなかたちになる。

⑤ 閲覧スペースでゆっくり本を調べたり読んだりしている…といいたいところだが、いつも必要に迫られて、目的の図書に一直線で向かうという行動パターンなのが悲しいところ。実際に書架の間を回遊することで、思いがけない出会いがあるので、ときどきうろうろすることを心がけている。大型書籍のコーナーは、絵画や彫刻などの美しい図版をみられるのでおすすめ。

⑥ 府大の古典文学関連の電子リソースは、コロナ禍を経て飛躍的に充実しました。小学館『新編日本古典文学全集』や岩波書店『新日本古典文学大系』はほとんどの作品が利用可能です。専門外の皆さんも気軽に原文を楽しめます。ただし、それは氷山の一角。電子リソースは入り口と心得て、その先に広がる冊子の大海上(沼?)にダイブしてみてください。



公共政策学科 教授 佐藤 千恵

- ① 親子法を中心とした研究、特に父母間の子をめぐる争いに対する予防法的観点からの法制度の研究
- ② a 週に1回
b 資料の利用・個人研究・授業やゼミ・ILL利用・休憩
- ③ a 月に4~5回
b 電子リソース・マイライブラリ(ILL申込)
- ④ 電子リソースを主に利用している。自身の研究や授業での判例紹介に役立つので、特に判例検索に便利なWestlaw Japanをよく使っている。授業準備では朝日新聞クロスサーチも活用している。紙面ビューアで記事入手できるので重宝している。

⑤ ゼミなどで、施設予約サイトから手軽に予約できるグループ研究室を利用している。また、気分転換に図書館に行き、雑誌開架で雑誌を読むのを楽しみにしている。紙媒体であれば、専門外の興味深い記事や新刊情報にも自然に触れられるので、データベース検索では得られない新たな発見があり、有意義な時間を過ごせる。

⑥ 大学は主体的に学ぶ場です。ドラえもんのポケットのように、図書館には主体的な学びを支援してくれる多彩なツールが揃っています。集中して勉強したい時は研究個室を使ってみましょう。気になるテーマがあれば、まずは電子ブックを検索してみるのもよいでしょう。必要な文献がない時は相互利用サービスを活用してみましょう。



栄養科学科 講師 田代 有里

- ① 食品物性(主に、食品のレオロジーおよびテクスチャ)に関する研究
- ② a 年に10回くらい
b 資料の利用・ILL利用・グループ研究室で研究打ち合わせ
- ③ a 月に15回くらい
b 電子リソース・マイライブラリ(ILL申込)・蔵書検索・グループ研究室の予約
- ④ 特に使い分けてはいないが、開館時間外に急遽調べたいことがある時や図書館まで足をのばすのが億劫な時に電子ブックを利用している。それでも冊子の

方が内容が充実している場合があるので後日に冊子も確認する。また、最新の研究論文は電子ジャーナルでないと入手が難しい。

⑤ 他大学図書館への論文や図書の複写依頼や借用依頼が一番多い。館内設備では、グループ研究室を外部研究者との研究打ち合わせで利用している。来訪される方の中に足の不自由な方がおられ、バリアフリーで打ち合わせ場所に辿りつけるので大変助かっている。

⑥ 私が大学生の時は、実験レポートをいつも図書館で作成し、書架を眺めて参考になりそうな文献図書を探していました。大学図書館の面白いところは、必要な本が見つかるだけでなく、ちょっと読んでみたくなる本に出会えることだと思います。



冬の企画展示 歴史学科学生×図書館コラボ

ただいま企画展示コーナーでは、歴史学科の学生有志による学園祭資料から府大の歩みを読み解くパネル展示と、図書館が所蔵する大学関係資料の展示を行っています。

創立130年の歴史と学生の感性が響き合う展示を、どうぞご覧ください。

期間 2026年1月13日(火)～3月31日(火)

場所 2階フロア図書館入口付近のスペース

テーマ 京都府立大学創立130周年記念展示



Message

2025年11月1日・2日に行われた流木祭では、京都府立大学創立130周年および流木祭75周年を記念し、歴史学科と文化祭実行委員会の有志が、図書館の協力のもと「京都府立大学130周年・流木祭75周年記念展」を開催しました。このたび同展示の内容を一部修正し、図書館の冬の企画展示として、京都府立大学の歴史をあらためて紹介します。この機会に、本学がどのような歴史をたどってきたのか、ぜひご覧ください。

歴史学科3回生 渡邊 康友



編集後記

「達人たち」の図書館活用法はいかがでしたか？ 冊子と電子リソースの使い分けや、その利用頻度に思わず唸ったり、図書館が学生生活に欠かせない場所として捉えられていることに嬉しくなったりしました。ここまで活用している方は多くないかもしれません、「いいな」と感じたところを、ぜひ少しづつ取り入れてみてください。ご協力くださった皆さん、本当にありがとうございました。
(T.Y.)

撮影 note

表紙@京都市北区
12月、大学からゆっくり徒歩で金閣寺を訪れた時の一枚です。手前の枯れ木と、奥の名残の紅葉が対照的でした！京歩きの際は『京都の平熱』(※)をお読みになるとより楽しくなりますよ！
(府大写真部・新家悠斗)
※(開架 | 請求記号:291.62 || W)

『ながらぎ』京都府立大学図書館報 252号 ISSN:1344-5561

2026年1月発行 編集発行人:小林啓治

発行所:京都府立大学附属図書館 〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

TEL 075(703)5128~5131 FAX 075(703)5192

HP <https://www.kpu.ac.jp/library/>

X(旧Twitter) アカウント名:京都府立大学附属図書館(@kpu_library)

▼図書館 HP ▼X(旧Twitter)

